



大阪市立大学  
工学部同窓会

# 同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06 (6607) 8 3 7 3

FAX 06 (6605) 2 7 6 9

発行人 田守 芳勝



加藤錠治 作

## 《 目 次 》

表紙は「勢至菩薩の彫刻」…………… 1	学科の近況・会員短信（知的材料工学科）…14～15
田守会長・濱名誉会長の挨拶…………… 2	〃                    （環境都市工学科）……………15
平成20年定年恩師の寄稿・JABEE認定…………… 3	平成20年工学部卒業生名簿……………16
学科の近況・会員短信（機械工学科）……………4～5	〃    工学研究科修了生名簿……………17
〃                    （電気工学科）……………5～6	〃    工学部入学生名簿……………18～19
〃                    （応用化学科）……………7～8	〃    工学研究科入学生名簿……………19
〃                    （建築学科）……………8～9	工学部・大学院だより……………20
〃                    （都市基盤工学科）…9～11	叙勲・受賞・工学部同窓会50周年……………21
〃                    （応用物理学科）…11～12	工学部同窓会事務局年報……………22
〃                    （情報工学科）……………12～13	平成21年評議員会案内・工学部電話番号・後記……………23
〃                    （バイオ工学科）…13～14	平成21年“工学部同窓会の集い”の案内……………24

## ご挨拶

会長 田守 芳勝



平成20年も風雲急を告げる中終わろうとしております。あまり庶民には実感がありません。長期にわたる好景気は、アメリカでバブルはじけたのを契機に急降下、いまや出口の見えない世界的恐慌へ転落しているようです。

ガソリンの高騰に始まり、バターやパンなど生活必需品の値上げはすぐさま庶民の懐を直撃しております。

学友会が支援している就職支援においても昨年度の引く手あまたの学生天国から、一転して厳しい就職活動を余儀なくされる状態です。

景気の長さ、高さを掛け合わせた好景気の総量は1990年のバブルのころと同じほどだったのかもしれませんが、今回の好景気は果実の分配が広く庶民にいきわたったのではなく、極く限られた人たちに握られた富によるマネーゲームによるものであったため、その連中が逃げ出せばたちまち不景気風が吹き荒れるというのが現状なのでしょうか。

麻生さんもオバマさんも大変なときにトップに立ったのかもしれませんがね。

OB会会長がそのようなことを嘆いていても仕方がないので、この話は麻生さんにお任せしましょう。

さて、大阪市立大学工学部同窓会も2010年には創設50年を迎えようとしております。

初代会長柏田さん、中興の祖とも言うべき並河会長、その後の諸会長などの活躍により、他のどの学部にも負けない活躍をしていると思っております。しかしながら個人情報保護法の影響もあり、同窓会名簿の発行もままならず、一方若い人たちの同窓会離れなど同窓会の活動も岐路に立たされております。昔のような先輩、後輩の絆も希薄になり、パソコン世代の若者は良く言えば、独立心が旺盛で人に頼らないのかもしれませんが、悪く言えば、他人のことを考えず、独りよがりの個人主義ということになるのかもしれませんが。

われわれの時代のように同窓会名簿を頼りに先輩にものを頼みに言ったり、1升ビンを下げて単位をくださいなどとは決して頼みに行かない世代には同窓会なんてものは無用となっているのかもしれませんが。しかしながら在学中によき経験をし、よき友達が出来たなら、この若者たちも何10年後には母校に足を運ぼうというときがくるでしょう。

在学中に苦しかったが、楽しかった思い出、ライバルであったが、かけがえのない親友などを作る手助けが出来ないものだろうか。

その若者たちのためにもこの伝統ある工学部同窓会を引き継いでやらねばならないと思います。

50周年を目前に、次に来る60周年、70周年、100周年のために何か記念となる一里塚を残しておきたいと考える今日この頃であります。

(応物：昭和38年卒)

## 工学部・工学研究科の明るい未来を目指して

名誉会長 濱 裕光



政治は国内外を問わず混沌としており、経済は低迷が続けていますが、工学部同窓会員の皆様には、お変わりなくお過ごしでしょうか。ご承知のように大阪市の財政事情は一向に好転の気配を見せず、大阪市立大学では相変わらず厳しい状況が続いています。予算、人員の削減計画は現在も進行中ですが、嘆いてばかりいても仕方ありませんので、与えられた現実の中で矛盾と困難を克服し、明るい未来を目指していきます。残り少ない任期ですが、若い人達に希望の持てる工学部・工学研究科を残せるように微力を尽す所存ですので、今後とも変らぬご支援をお願いします。

まず、最初に皆様にご報告しなければいけないのは、学科再編です。平成21年度より知的材料工学科、電気工学科、応用物理学科、応用化学科、バイオ工学科、都市基盤工学科、環境都市工学科の7学科の募集を停止し、新たに電子・物理工学科、化学バイオ工学科、都市学科の3学科を開設し、現行の10学科から6学科に再編します。入学定員については、学部全体としては280名で増減なしです。文科省への申請を無事終え、オープンキャンパスでは受験生からの新学科への期待に手ごたえを感じました。

まず、最初に皆様にご報告しなければいけないのは、学科再編です。平成21年度より知的材料工学科、電気工学科、応用物理学科、応用化学科、バイオ工学科、都市基盤工学科、環境都市工学科の7学科の募集を停止し、新たに電子・物理工学科、化学バイオ工学科、都市学科の3学科を開設し、現行の10学科から6学科に再編します。入学定員については、学部全体としては280名で増減なしです。文科省への申請を無事終え、オープンキャンパスでは受験生からの新学科への期待に手ごたえを感じました。

少し明るい話題として、キャンパス整備計画検討委員会が設置され、長期ビジョンに沿ったキャンパス構想を打ち立てるべく議論が開始されました。また、業務改編の最初のステップとして、各種証明書発行などのIT化が年度内稼働を目指して準備作業中です。次のステップとして、来年夏の適切な時期に各学部事務室を廃止し、文系と理系に集約されます。杉本地区の理系三研究科の事務室は一箇所に統合される予定です。風雲急を告げる大学変貌の嵐の中で、後退は許されず、前を向いて前進あるのみ、工学部・工学研究科も痛みを伴いながらも新しく生れ変わろうとしています。今後とも温かく見守って下さい。

末筆ながら、工学部同窓会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(工学研究科長兼工学部長、工学研究科教授)

### 表紙の彫刻の説明

題名は「無我」(勢至菩薩)

「無我」は自我を否定して、他人とつながることによって営みが出来るという教えです。

これを「鎖」に例え、勢至菩薩の合掌した手に掛けて祈りを念じた作品です。詳しい説明は

URL:<http://www.eonet.ne.jp/~butsuzoh/> 参照

### 彫刻の作者略歴

元大阪市立大学大学院工学研究科

生物応用化学専攻教授(1999年定年退職)

1982年～宗教芸術院大阪支部水戸岡仏像彫刻研究所入所。模刻で仏像彫刻芸術を学びながら、仏像に限定した創作活動に勤む。

個性的、独創的教育・研究に期待する

米澤 義朗



1996年4月より化学系教員として本学工学部/工学研究科に12年間在職し、2008年3月定年退職しました。4月から岸和田にある雇用・能力開発機構・近畿職業能力開発大学校に嘱託として勤めています。物理化学の学問領域は広範であり、これまで教育・研究で関与できた分野はごく一部に過ぎません。長年の経験を若い世代に伝えるべく物理化学専門書の執筆を始めました。また勤務先の1、2年次学生に提供する初等化学教育・訓練を好機ととらえ、化学熱力学を中心にした古典物理化学をみつめ直したいと考えています。

周知のように我が国では、敗戦から昭和20年代の艱難の時代に学問の多くの部門において創造的な研究が花開きました。本学は大阪商科大学を母体に、1949年新制大学として出発した戦後教育のトップランナーでした。20世紀末になって新自由主義イデオロギーに立脚した「大学構造改革」が推進され、2004年以降、国公立大学の多くが大学法人に変わりました。各大学の歴史や理念を考慮しない一律的な構造改革の導入は、大学、学問の公共性と矛盾するのではないかと危惧しましたが、このかんの文教政策と改革を受容した大学は将来どのように判定されるのでしょうか。

本学工学部では、当面教員の新規採用が停止され、教育研究費の増額も見込めない状況です。しかし、本学と大規模大学の教育研究環境は、教員数を別にして、教員一人当たりの教育研究費など余り差はありません。国内外の研究情報の取得も容易になり、物資の乏しかった昭和20年代の日本と欧米の主要大学間の格差と比較すれば、現在の環境は相応に恵まれていて、創造的研究を遂行する条件は十分整っているといえます。大型研究費の「選択と集中」的配分は、博士学位と論文の量産には役立つものの、研究の独創性と直接関係しないことを鑑みると、近視眼的な研究費獲得競争だけでなく、長期的展望にたち学問研究と高等教育を通じて人類文化、社会に貢献する気概をもって独自に個性的、独創的な教育・研究を進めることが、本学工学部/工学研究科の役割ではないかと考えます。

(大阪市立大学名誉教授・元工学研究科教授)

市大工学部への思いと同窓生へのメッセージ

坂 壽二



定年退職して、7ヶ月になろうとしています。退職後は好きなことをして過ごせることと思い、あれこれと考えていました。これからは文系的な生活にと意気込みましたが、実現していません。研究室から持ち帰ってきた書物や資料は未だにそのまま、物置を購入しましたが空っぽのままです。今のところ演劇を見たり、青森、沖縄、北海道に家内と一緒にいったぐらいです。今年中には部屋を整理し、我が城を築き、好きなことをできるスペースと設備を確保しようと準備しているところです。

ただ後期になって、非常勤講師や耐震診断関連の委員会などで週二、三日は出かけており、余り自由な時間がない日々を送っています。

今回、市大工学部同窓会からこのような原稿の依頼があり、少し思いを書いて見ることにします。

市大工学部は来年度から新しい学科構成でスタートすることになっていますが、全国でも小さな工学部としての特徴を活かして、不利な点ばかりを見ないで長所を見出し、他大学の工学部がない良さをアピールしてほしいと思います。

教員の立場では、入ってくる学生の選抜方法や、卒業していく学生像の明確なイメージとその育成方法、教員の採用システムとその待遇など、工学部内の教員だけでなく、外部（同窓会も含まれるかもしれませんが）からの知恵も汲み入れて、学生や教員にとって魅力ある学部にしていただき、社会から今までよりもより一層期待される教育・研究の場となることを望んでいます。

同窓生の立場では、いろいろな分野で活躍されている同窓生の方々の活動を、会員の皆様をはじめ在校生に何らかの手段で情報を提供し、また何かの機会にその成果を披露していただき、社会の評価とともに同窓会独自の視点からの評価で地道に努力されている会員の成果も見出してくださればと存じます。そして在校生の将来を明るくするとともに同窓会の存在意義を認識していただけるよう努力をする必要があるのではないかと考えています。

最後に、皆様の益々のご活躍を願っております。

(大阪市立大学名誉教授・元工学研究科教授)

—工学部の日本技術者教育認定機構（JABEE）認定の現状—

平成20年現在、機械工学科、都市基盤工学科、電気工学科、応用化学科、建築学科、応用物理学科、知的材料工学科、環境都市工学科の教育プログラムが基準に適合すると認定されています。

JABEE認定とは、国際的に通用する水準の技術者育成を実際に行っているかどうかについて、カリキュラムのみならず教育方法、教員組織、教育環境、教育成果などを外部機関が公平に評価し、水準を満たしている教育プログラムを認定する制度です。

認定された教育プログラムの卒業生には修習技術者（技術士補）の資格が与えられ、技術士の一次試験が免除されます。

## 機械工学科の近況

加藤 健司



卒業生の皆様には、ご健勝でご活躍のことと拝察いたします。

機械工学科では、本年度の学部卒業予定者28名のうち、大学院進学者は23名でした。今年の就職求人状況はすこぶる良好で、すんなり就職が決まる学生が多い一方、おとなしい人は若干苦戦する様子も見られました。本学の学生は、真面目でコツコツ努力するタイプの人が多く、面接で内気な印象を与える場合もあるようです。おとなしくても技術屋として好ましい資質をもった人も多く、もう少し長所がアピールできれば、と感じるときもありました。

近年、博士課程進学者が少数であることに頭を痛めています。教員数の削減といった逆風の中で、やる気のある学生の存在は、研究室の活性化に大変重要であることを改めて痛感しています。博士課程の学生は、研究室内の行事や後輩の世話でリーダーシップを取る姿勢を自然に身に付け、社会人として大変好ましい人材に育つ方が多くおられます。専門性に偏った硬いイメージを受けがちですが、皆様方には、博士課程の学生さんのポテンシャルを正しくご理解いただければと思います。また、博士課程へ進学し、さらに自己を高めたいと思われる方がございましたら、気軽にお尋ねください。

人事面では、特任准教授の杉山博之先生が東京理科大学に転出され、本年10月から新たに藤田勝久先生が機械力学分野の特任教授として着任されました。

来年度から、現機械工学科と知的材料工学科が一緒になり、新機械工学科として発足いたします。皆様にはこれまで通りご在籍した学科に愛着をもっていただき、率直なご忠告やご助言などいただければ大変嬉しく思います。今後とも一層のご支援を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

(工学研究科教授・機械工学科主任教授)

## 扇町の頃

濱本 嘉輔



う印象でした。

昭和31年3月理工学部機械工学科卒業。毎年、桜花爛漫の季節に同窓会「市扇会」が開かれています。学部4年間は扇町の南・北校舎で過ごしましたが、卒業式は、米軍の接収から全面返還されて間もない杉本町の白亜の学舎でした。扇町と較べて随分奇麗な広いキャンパスと云

卒業後、自動車会社に5年間、その後幾つかの大学に勤務し、そして今年遂に、後期高齢者になりました。ある長老の仏教者の話では、人生70才台が一番良いとのことなので、何があるかと楽しみにしております。

私達は理工学部創設4年目の学生ですが、教養課程での或る朝登校したら、玄関の階段の上に仁王立ちの小竹無二雄先

生(学部長)が、「台風が来る、早く帰れ…」と、また先生は力学か何かの演習時間に、ぶらりと教室に入って来て、見て回ったり、若い頃の話がされたことを思い出します。草創期の学部を背負って立っていると云う感じです。私は幾つかの大学に勤務してきましたが、あのような意気込みの学部長を知りません。当時の理工学部は活気に満ちていたようで、新進気鋭の先生方が多く集まり、研究者の梁山泊とも云われていたそうです(産経新聞編「大学を問う」1997新潮社)。そのような時期に学生だったことを幸運に思います。「昔は良かったシンドローム」かも知れませんが、南部陽一郎先生のノーベル賞ニュースを見なが「扇町の頃」を思い出しました。

(機械・昭和31年卒)

## 近況報告

神田 尚武



お久しぶりです。大学院を卒業してから早7年がたちましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか?先日、研究室在籍時の担当教授より原稿の依頼を受けました。急な電話に、少々驚きましたが、久しぶりの声を聞き研究室にいた頃を懐かしく思い出します。

私は卒業してから現在まで自動車部品会社の研究・開発部門に勤めており、数年前からは電動パワーステアリング用モータの研究・開発に携わっております。機械工学科出身でモータ関係の仕事に就いているのも珍しいかもしれませんが、CADを使った構造設計や解析、静音設計など比較的メカ的な分野の仕事に携わっています。しかし、モータを扱う以上電気などモータ特有の知識は最低限必要でした。機械工学科出身の私はもちろんモータの知識など無く、最初は周りの話についていけず焦りました。先輩に教わったり、自主的に勉強したりして、少しずつですが知識がついてきて、今の仕事にやりがい持てるようになってきました。

モータは一つの自動車部品にすぎませんが、パワステ以外にもハイブリッド自動車や電気自動車など電動化による環境性能の向上がトレンドとなっています。今後はパワステの分野に係わらずモータを利用して環境に役立てる新たな製品開発に携われればと思います。

最近では同期や当時の研究室メンバーと会うことも少なくなりました。定期的に出会っているメンバーも数人いますが、一度機会があれば皆と会いたいものですね。

(機械・平成11年卒・同13年前期博士課程修了・(株)ジェイテクト)

[次のページへつづく]

## 近況報告

### 四宮 徳章



2003年に工学研究科機械物理系専攻を修了し、大阪市都市整備局で5年間、公共建築物の設計と工事監理に設備担当者として携わりました。そのなかで、本学の総合教育棟の建設設備工事にも担当させていただきました。また、2005年に工学研究科後期博士課程に入学し、現在

は、後期博士課程を修了するため研究活動および博士論文の執筆に励んでおります。研究テーマとしては、大阪市のヒートアイランドと空調排熱の関係を、空調機の性能を詳細にシミュレーションするといった熱工学の観点より解明するものであります。10代後半から20代全般の青春時代を過ごした大阪市を、より住みやすく、また、より訪れやすい街にするため、これからも一研究者として努力していきたいと思っております。みなさまもお忙しいと思いますが、お体に気をつけて下さい。

(機械：平成13年卒・同15年前期博士課程修了・大阪市役所)

## 電気工学科

### 電気工学科の近況

#### 向井 孝彰



卒業生の皆様にはご健勝にてそれぞれの分野でご活躍のこととお喜び申し上げます。今年3月には33名が卒業しました。うち10名が企業へ、1名が公務員として就職し、16名が大学院に進学、3名が他大学大学院に進学しました。4月には29名の新生が入学しています。昨年度末には重田和夫先生が定年で退職され、現在の電気工学科のスタッフは電磁気学(南、武智)、電子回路学(會田、高橋)、材料計測学(草開、田中)、光電子工学(向井、宮崎)、電磁機器学(辻本、村治)の計10名です。

2005年度には学科の教育プログラムが日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けましたが、指摘された項目の改善に対しその中間審査が昨年10月末に行われた結果、全てにクリアして、2005年度から5年間の認証を受けることになりました。技術士を目指す卒業生の皆様には朗報です。

工学部では平成21年度から学科再編を行い、現行の10学科から6学科体制に移行することになりました。現在の電気工学科、応用物理学科、情報工学科の3学科は、電子・物理工学科と情報工学科の2学科に改組することになっており、本年8月のオープンキャンパスから新学科体制での受験候補者への勧誘活動を行いました。来年の新生から新学科がスタートしますが、今年の新入生が卒業するまでは、電気工学科としての教育プログラムは継続しますので、引き続き皆様のご支援ご協力を頂きますようお願い申し上げます。卒業生の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念いたします。

(工学研究科教授・電子情報系専攻長兼電気工学科主任教授)



### アナログ人間の見たIT革命

#### 西村 行雄



卒業以来ずっと大学に勤め、停年後5年が経ちます。大学は大阪(4年)、広島(27年)、島根(7年)と移動しましたが、専門が制御工学であり主として機械系の学科に在籍していました。さて、私が学生の頃、ラジオ、テレビは真空管式で、電話交換機はリレーで構成されて

いました。卒論では計算尺や手回し式歯車計算機が活躍し、1963年にやっと真空管式アナログ計算機が導入されました。1960年代後半に、リレー式計算機、トランジスタ式デジタル計算機を経て大型電算機が出てきました。その後磁気ディスクが登場し、素子の集積化や処理の高速化によって計算機(CPU)は、携帯電話やゲーム機などの多分野へ用途を拡大し、ネット通信の隆盛へ至ったことは皆様もご存知の通りです。今や社会の活動様式や個人の価値観までも一変させたと言っても過言ではありません。その余波は、大学の組織やカリキュラムの編成に波及しました。総じて、個々の学生の自由を大幅に増やす方向に流れていますが、一方では学生達の団体への帰属意識を低下させる一因ともなっているように思います。

写真は、平成20年10月に行われた38機電会(昭和38年機械科、電気科卒業生同窓会)の参加者です。同窓会は毎年開催されていますが、出席率は毎回50%超です。出席率の高さと継続性は、良かれ悪しかれ学生時代に行った共同作業の多さを物語っています。

(電気：昭和38年卒・同40年修士課程修了)



## 「杉友会」を発足

南 繁行



平成20年6月7日(土)に昭和40~41年電気工学科入学生が同窓会を行いました。総勢25名が学生時代の気持ちに戻って久しぶりに語りあうことが出来ました。この集まりを「杉友会」と名づけて、今後、年1回開くことになりました。入学年度で集った理由は、卒業時期

は違っても大学時代の思い出が入学から共に過ごしたことにこそあり、そこに「同窓の意義」があると考えました。お互いが打ち解けて楽しめる点は卒業年次の集まりより倍面白いので、皆様も試みられたらいかがでしょうか。

(電気：昭和45年卒・同47年修士課程修了・工学研究科教授)



## 近況報告

原 誠一



みなさん、お元気ですか？

卒業後1、2年は大学に訪問する機会があったのですが、最近足が遠のいています。大学の近況については、同窓会だよりを通して知る程度になりました。近々、学部の再編があるようで、私の在籍していた電気工学部がなくなるのは、寂しく思います。

私は大学時代からモノ作りをしている企業に就職したいという思いがあり大学卒業後は、FA機器メーカーに勤めています。FA機器は主に工場に使われており、普段の生活ではまったく目にする事のないものなので、入社前は製品のイメージがつかめませんでした。入社後、製品を手にとって使ってみたり、実際に工場での使用されているものを見たりすることで、製品の機能・用途といったものが、大分とわかるようになってきました。

入社から2、3年は、先輩社員からの指示のもと主に製品の検証業務を行ってきました。この業務を通じ、製品の品質・安全・信頼性に対する考え方と、回路設計の基礎を身につけることができたと思います。製品の開発に携わり、製品が企画され発売に至るまでには、いろいろな部署の協力、製品に対する十分な性能・品質確認を経てやっと製品が世の中に出されるのだと実感しました。

最後に、市大卒業生のご活躍を心より期待しています。

(電気：平成14年卒・同16年前期博士課程修了・和泉電気㈱)

## 近況報告

野口 浩司



お久しぶりです。卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。大学院を卒業してから2年半がたちました。私は現在、主に電気製品に内臓されるモジュールの回路設計を行っております。製品が民生用ということもあり、納期が厳しい業界ではありますが、学生の頃から興味があった分野なので、毎日楽しく仕事に取り組んでいます。

入社したての頃は、大学での講義とは全く違う会社の雰囲気、圧迫されていましたが、先輩方のご指導や、頼もしい同期のおかげで、最近ようやく社会人として一人前になれるのかなと感じています。学生時代を振り返ると、研究室に配属されてからの時間が今の自分にとって大きな財産になっていると感じます。研究を進めることによって、自ら答えを求めていく姿勢を身につけることができたことはもちろんですが、研究以外にも多くの時間を過ごした仲間ができたということが大きいと思います。時々ではありますが、研究室のメンバーで集まり、近況を報告しあっています。普段あまり連絡をとらなくても、集まればその当時の雰囲気のまま、でも、それぞれが成長していると感じます。勤務先、職種は全然違いますが、自分にとって一番の仲間であり、よきライバルだと感じています。

まだまだ駆け出しで勉強することはばかりですが、もっと高いレベルに到達できるように頑張っていきます。今度、皆さんに会ったときに成長したと感じてもらえるように。

(電気：平成16年卒・同18年前期博士課程修了・㈱村田製作所)

## 電気工学科同窓会開催される

実行委員会代表 南 繁行

2008年11月3日のホームカミングデーにあわせて、今度工学部学科再編でその名がなくなる電気工学科についての説明と、同窓生の親睦を兼ねて同窓会が開催され、約70名の同窓生や新旧教員に出席していただきました。当日、「電気工学科のあゆみ」という60ページの冊子を作り配布しました。なつかしい写真や記事が載っています。ご希望の方は、minami@elec.eng.osaka-cu.ac.jpまでお知らせ下さい。お送りいたします(無料)。同窓会の今後についてのご意見もお待ちしております。



## 応用化学科の近況

畠中 康夫



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平成16年4月に大阪市立大学に赴任し、昨年度より応用化学科の主任を仰せつかっております。この間に携わった教務関係の事項や学科全体にかかわる業務を通して応用化学科が転機にさしかかっていることを肌で感じてきました。ご存知かとは思いますが本学科は来年、平成21年度から、バイオ工学科と統合し、化学バイオ工学科として再出発します。本々、バイオ工学科は、応用化学科から分かれて設立した経緯がありますが、両学科の分離独立後は、それぞれの学科が独自の特色をだすべく研究・教育を、異なった方向に進めてきました。来年度からの両学科統合は、研究のみならず、学生の（特に学部学生の）教育をどのように行っていくかという点で大きな課題を抱えており、両学科の教員一同、色々と頭を悩ます今日この頃です。再統合し、化学バイオ工学科として再出発する以上、「化学」と「バイオ」の両分野を学ぶことを、学生がよかったと思える教育体制を築きたいと考えております。

例年通り、今年度の学部卒業生の大半が、本学の大学院修士課程に進学し研究生活に励んでおります。ご存知のように、平成14年の工学研究科の再編以降、四専攻体制で大学院での教育・研究体制をより充実させ、後期博士課程の社会人入学制度（4月と10月入学）で社会人の方々にも博士号取得の機会を提供しております。十数年前に修士修了された卒業生で、最近社会人入学し、在籍中の方もおられます。企業でのこれまでのお仕事をまとめて、博士号を取得しようとお考えの方は、是非、化学生物系専攻の教員に気軽にご相談ください。

（工学研究科教授・化学生物系専攻長兼応用化学科主任教授）

## 教員になってからの5年間

有吉 欽吾



平成16年3月に応用化学専攻後期博士課程を修了し、本学教員になってからはやいもので5年が過ぎました。最近ようやく学生から先生とよばれるのにも慣れてきたところですが、今年からは無機系科目の講義を担当することになり、人に教えることの難しさを痛感しています。

この5年を振り返ってみると、思うようにいかないことも多く、時として学生に多くを望んでしまって学生が反発したりと、「どうすればうまくいくのか?」と思い悩んだこともしばしばでした。

それだけに、ある学会で学生の講演を聞かれた方から、「しっかりした発表をする良い学生さんがおられますね。」と云われた時には、自分の事のように嬉しく、主役は学生で自分はそれを助けていく立場にあることを痛感しました。ま

た最近では、国際学会で優秀講演賞を頂いたのですが、その成果は、小職のアイデアを学生自身が創意工夫で大きく育ててくれたというのが正直な感想です。このことがあってから、あらためて市大生の資質の良さを認識するとともに、学生の資質をうまく引き出していくことが成長の近道ではないかと思うようになりました。

これからも「おなじやるなら楽しく」をモットーに、「さすが市大」と評価して頂けるよう、学生ともども頑張りたいと思っております。卒業生の皆様方におかれましても、今後ともあたたかい目で見守っていただければと思います。

（応化・平成11年卒・同16年後期博士課程修了・本学応用化学科講師）

## 地球の裏からグーテンターク!

夫 恒範 (ぶ はんぼむ)



03年春、生まれ育った大阪を旅立ってからドイツでの（研究）生活は5年以上になりました。言葉は勿論、生活様式・文化・習慣などが全く違う世界（異国）での生活は、スーパーの買物一つが重労働になるしんどさが待っています。しかしそれ以上に異文化圏で生活する経験

は得がたいものです。

真夏でも木陰に入るとヒンヤリ涼しい夏、11月末からドイツ全国の各街で開かれる厳かで且つ壮麗なクリスマスマーケット（ドイツ人の生甲斐です）。教科書の中に見覚えある旧所名跡・教会・絵画・偉人の遺品等々を訪ね歩く…。人生の財産になる思い出は数限りありません。

来独の目的は「エンジョイ・ドイツ生活」でなく、「ドイツにおける研究（自己研鑽）」であります。ではそのコツと成果は如何?

ドイツの大学はインターナショナルです。独人はじめ仏・西・英・露・印・中国等（十カ国）の研究者達と研究生活を共有してきました。独風研究方法ならびに各人の行動様式の間（ま）は微妙に違うのです。初めの頃「大阪（日本の大学）でこんなことするかっ!」と腹立ち紛れに心中でよく毒づきました。分らないことが多すぎて毎日ひたすら混乱しました。…もう行動あるのみ、自分から相手にボールを投げないと何も始まらない。違いを当然と受け入れ「安いプライ



（南ドイツ Füssenにあるホーエス城 (Hohes Schloss) にて）

ド」を捨て「素直に教えを請う」そして「真似て慣れる」、私が見出した異国で生き抜くテクニックです。

すでに幾遍と語りつくされた人生哲学の一片の真理でしょう。「当り前が如何に有難いか」「真実の一つではない」「人間が備えた順応性」を身体で理解するのに私は地球の裏側まで行く手間が掛かりました。でも後悔はありません。むしろ

そんな機会に恵まれた幸運を噛み締めています。賢明なる後輩のみなさん、ドイツでなくても日本で大阪で得がたい経験と邂逅は見つかります。行動あるのみ！『チャンスの女神には後ろ髪が無い』、これというチャンスは逃がさないでください。

(平成13年 応用化学専攻 後期博士課程修了)

## 建築学科

### 建築学科の近況

梅宮 典子



建築学科卒業生の皆様、こんにちは。平成20年度学科主任の梅宮です。学科の近況を報告させていただきます。

今年度、2人の先生が着任されました。まず建築デザイン教授（都市研究プラザ兼任）として宮本佳明（かつひろ）先生。ジャン・ヌーベル賞、JIA新人賞ほか数々の受賞歴があり、阪神大震災で全壊認定を受けた築100年の長屋に鉄骨造フレームで構造補強を施した野心作「ゼンカイ」ハウスによって知られる、新進の建築家です。卒計講評会外部講師としての鋭いコメントをご記憶の卒業生もおられるかもしれません。

また、建築構造学講師（特任）として吉中進先生。東大生産研を経て市大に着任後、建築学会奨励賞「分散型MTMDによる大スパン建築構造の振動制御に関する研究」、さらに前田工学賞を受賞されています。

なお4月に、建築構造の谷口与史也先生と建築環境の梅宮が教授に昇任しました。

進路状況では、4回生（31名）で進学17、ゼネコン6、住宅メーカー4名他、大学院で設計事務所5、ゼネコン3、住宅メーカー3名他が内定しています。5月中旬には内定が出揃う売り手市場ですが、そのせいか公務員受験者がいないのは、課題かもしれません。

ここ数年、学生が各種設計競技に積極的に応募するという伝統が確立されつつあるのは喜ばしいことです。都市住宅学会コンペではM1の羽太義人・河合美幸・金沙智・吉川敬子案が最優秀賞に、日本建築学会コンペではM2の黒木悠真案が優秀賞に選ばれています。（詳しくは学科HPをご覧ください。）

学科再編や建築士法改正があり、学科として取り組むべき課題は今年も多いですが、今後とも卒業生の皆様の温かいご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。（工学研究科教授・建築学科主任教授）

### 三輪雅久先生の叙勲をお祝いする会

西川 靖一



大阪市立大学名誉教授・三輪雅久先生にはこの度、平成20年度春の叙勲において、長年にわたる教育・研究が認められ「瑞宝中綬賞」をお受けになりました。

この機会に、先生のこれまでのご功績を称えるとともに、お世話になった者が相集い、先生ご夫妻を囲み語り合うやさやかな「お祝いの会」が、9月28日の日曜日大阪中央区にある、英国風会員制社交倶楽部「大阪倶楽部」の“花外楼”で開催されました。

出席者は、工学部建築学科都市計画研究室の学部ゼミ卒業生60人をはじめ大学院修了生、地方自治体、現大学工学研究科から合わせて100人を超す関係者がお祝いに駆けつけました。

開会の1時間前から、ロビーでは、久しぶりにお会いするお元気な先生ご夫妻のお姿を拝見し、お祝いの挨拶が続き、控え室は、熱い熱気にあふれていました。



2時から始まったお祝いの会は、赤崎教授の司会で始まり、歓談を中断しての祝辞は、大学を代表して工学研究科長の濱教授から始まり、各年代から先生との四半世紀から半世紀にわたる思い出話に終始し、終了の時間が延長され盛大な「お祝いの会」となりました。

お開きになっても、三輪先生ご夫妻との記念撮影は続き、歴史と伝統のある都市計画研究室に新たな1ページが加わりました。

(建築・昭和41年卒・(株)浅沼組顧問)



## 転換期

佐竹 知希



師走を迎え寒さが日に日に感じる今日この頃、同窓会の皆様いかがお過ごしでしょうか。私は大学院を修了し、はや5年が経とうとしています。今回は最近私の身近で感じる3つの転換期についてお話しします。

第1に本学で永年に渡り、研究・教育に携わって来られた坂先生、杉山先生の御退官です。先生方にはこの紙面に書ききれないほどの多くの思い出があります。また授業・ゼミを通じて多くのことを御指導頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。先生方から教わったことを糧に今後も、我々の若い力で建設業界を牽引していきたいと感じています。

第2に耐震偽装事件に端を発し、建築基準法・建築士法等の法改正が行われ、建設業界を取り巻く環境が大きく変化しています。失われた社会からの信頼を取り戻すことが急務になっているのではないのでしょうか。ゼネコンの構造設計部に籍を置く私も例外なく、法改正に伴う影響を受け、日々多忙な業務に追われているのが現実です。

第3に我々50期卒業生は間もなく20代から30代への転換期を迎えています。そのような中、今年のGWに同期でゴルフコンペ（第一回OCU杯）を行いました。同期で集まりそれぞれの活躍話や愚痴など、卒業後も本音で話せる同期の大切さを改めて感じる良い機会となりました。今後は恒例行事（？）となり、参加人数も増え、いくつになっても50期卒業生の和を育んでいきたいと思っています。

（建築・平成14年卒、同16年前期博士課程修了・安藤建設株）



## 近況報告

鄭 英柱



「あなたの仕事は何ですか？」と聞かれれば、「ジアゲをやっております。」と答えるようにしています。もちろん、これまでのような「土地を召上げる」ジアゲではありません。

尼崎市は、これまでは課題のある地区において、多くの面的整備事業を実施してきました。この結果、市域のかかなりの部分で、何らかの面的整備事業が実施済みです。しかし、昨今の財政難から、新たな面的整備事業の実施が難しくなっております。そんな中で、住環境整備事業と住宅市街地総合整備事業を担当しており、「課題のある地区を改善する。」というのが、私のミッションです。さらに、都市計画などを実際に活用する立場にありますので、都市計画区域マスタープランから地区計画までの検討や、建築基準法関係の各種制度の検討にも参加しております。

「お金をかけずに如何にして地区を改善するか。」を検討することが、私にとってはとても面白いです。要するに、都市計画法と建築基準法を中心に、各種の法制度を駆使するのですが、その様なことを考えていると、都市計画や建築は、都市に与える影響が小さいことに気付かされます。そして、都市が抱える課題は、実は、都市計画や建築には無いことが多いと気付かされました。地図を見て、統計を調べて、現地を歩いては分かりませんでしたが、違う観点から見ることによって、真の課題に気付いたようです。何事も多面的に考えることは大事だと思い知った今日この頃です。

（建築・平成7年卒・同9年前期博士課程修了・尼崎市役所）



## 都市基盤工学科

### 都市基盤工学科の近況

角野 昇八



卒業生のみなさまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか？小生、2年間、工学研究科を離れて大学の法人本部業務に就いておりましたが、4月より復帰し、早速、教室主任を仰せつかっております。

ご存知の通り、昨今の世の中の動き

はめまぐるしく、先を見通すのはなかなか困難な状況にあります。とりわけ、都市・社会基盤工学分野においてはそれが顕著なものはご存知の通りです。このようなこともあり、本会報の前号で大内一主任（当時）よりご紹介いただきましたように、本学の工学、理学各部では平成21年度より学科再編が行われることになりました。名称変更以来の4年間、各所でなじまれつつあった「基盤工学科」も来年度からは、現「環境都市工学科」と合体した「都市学科」として50名の新入生を迎えることとなります。都市「工学」とはせずに、都市「学」と標榜したところに学科全体のめざす新しい方向があ

ることをご理解いただければと存じます。

さて、今年度の教職員の移動ですが、小職が学科教育から離れていた2年間、小田一紀名誉教授に特任教授として赴任いただき、水理学関係をご講義いただいていたのですが、4月からは以前の姿に戻っております。小田先生にはこの間、教育以外に学生の実習のお世話でも大変お世話になりました。また、長年お勤めいただいた池崎浩三技術職員が昨年度末に退職されました。池崎さんには、主として材料関係の研究支援のみならず、学科教育でも補佐していただきました。一方、松村政秀講師は、この11月より来年8月まで、イタリアのパヴィア大学に滞在されて、耐震工学の研究に従事されることになっています。教室一同、かの地での活躍と帰国後の新しい息吹を期待しております。今年度末には、北田俊行教授が退職されることになっていますが、本学科では、これから3年間、4名の教員の退職が続くことになり、その分、一気に若返りが進むこととなります。

学生の就職ですが、例年のように卒業生のみなさんの熱心なリクルート活動のおかげで、ここ数年好調に推移しております。ただ往時のように教室主任が学生と連絡を取り合って求人先を紹介し、推薦するという方式は、学生自ら直接企業や団体とやり取りをするというやり方に代わりつつあります。また、企業側の採用活動の早期化と長期化がさらに著しくなり、求人活動のスタートは、毎年ほぼ1月ずつ早まっている感があります。ちなみに今年は、2010年春の就職に向けて、すでに何社かの訪問を受けております。

今年度の場合、4回生については、2名の他大学進学も含め、進学は18名（進学率60%）、公務員0名、民間9名（うち建設関係5名）、未定3名です。本学科関連の前期博士課程2回生については、公務員2名、旧公社公団を含む法人5名、民間15名（うち建設業4名、コンサル2名）で、全員の進路が決まっています。民間への就職が大幅に増加しているのが最近の傾向です。

本学では、「都市」に関わる学問を大きな柱として研究と教育をすすめ、さらにその成果を市民に還元することを建学以来の精神としてきました。都市の「社会基盤」と「環境」を主要テーマとしていた二つの学科が「都市学科」として統合されることにより、より大きな研究・教育基盤を得て、都市に関わる研究と教育の新しい地平を切り拓けることを願っております。卒業生のみなさまの倍旧のご理解とご支援をお願いするものです。

（工学研究科教授・都市基盤工学科主任教授）

## 土木学会全国大会時土木会同窓会報告

丸山 宣夫



9月10日～12日の3日間、平成20年度土木学会年次学術講演会が東北大学にて開催され、土木学会の初日に恒例となっている土木会の地区同窓会が、東北一の歓楽街国分町に面したホテルリッチフィールド仙台で行われました。

出席者は、6名の教職員、学会出席の

OB5名、院生13名、及び在仙のOB3名と例年になく小規模な会となりましたが、学生の出席者が多かったのが今回の特徴でしょうか。

まず、大内主任教授より大学の近況（特に工学部の学科再編成に伴う建設系の都市整備工学科と環境都市工学科の併合）について話していただき、次に北田教授の乾杯によって宴の始まりとなりました。宴は準備をして頂いた石幡氏（46年卒・仙台市）により進められ、出席者の自己紹介・近況報告等の後会員相互の親睦を仙台料理を味わいながら深めました。

バブル崩壊前には東北地方にも10数名の会員が在籍していましたが、公共工事の激減により現在では4～5名程度と寂しい現況です。また、新幹線、高速道路の開通は拠点となる主要地域への移動ためには便利になりましたが、その間の地方都市は今まで以上に移動が不便となり寂れつつあります。

インフラ整備には、多大な資金と年月が必要です。地域に公平なインフラを一時的な要求ではなく、次世代にも喜ばれる長期計画に基づく整備を推し進めることが必要では…

東北地方の現在も使用されている土木遺産を巡っています。  
（土木・昭和44年卒・丸山土木技術サービス）



## 近況報告

鈴木 康夫



同窓会だよりへの寄稿の機会を頂き、何を書こうかと学生時代の頃を思い返してみると、早いもので、学部卒業からもう丸8年以上も経っている事に驚きを感じます。私は、修士・博士を含め、9年間の市大での学生生活の後、1年間のボストン生活を経て、現在、宇都宮大学で

助教をしております。この間、ずっと大学に在籍し、常に周りに学生が居るため、まだまだ20代前半の気持ちでいましたが、年齢ももう31を超えてしまったのかと、なんとも複雑な気分です（この歳で『もう』なんて言っていると、先輩諸氏にお叱りを受けそうですが…）。

さて、現在、私は学科運営のお手伝いや学生の研究指導の他、実験や演習科目を担当しています。講義の前日には、その準備の為に学生時代のノートを引き張り出し、徹夜で予習（と言うより復習？もう少し学生時代に真面目に勉強していればと後悔）をすることも多く、学生時代のノートを見る度に市大のC-304教室やC-305教室での光景を思い出します。当時は、それ程有り難味を感じず授業を受けていた気もしますが、自分が教壇に立つようになり、今更ながら、教えること

の難しさと、色々な事を分かりやすく教えて下さった市大の先生方の偉大さを感じています。

市大工学部土木工学科を卒業して、もうすぐ9年。学籍番号A96T5〇〇の皆さん、そろそろ同期みんなが集まって、学生時分の思い出話を肴に、一度呑みにでも行きませんか？市大で勉強できたことに感謝しつつ…

(土木・平成12年卒、同14年修士修了、同17年博士修了・宇都宮大学工学研究科助教)

## 民営化したNEXCO西日本

森本 和人



私は平成15年3月に大阪市立大学を卒業し、同4月に当時の日本道路公団に入社しました。入社からの最も大きな出来事は、平成17年10月1日に道路公団が分割民営化し、西日本高速道路㈱に生まれ変わったことです。

民営化した会社として、第一に借金

(有利子負債)を着実に返済をしていくこと。第二に高速道路ネットワークの充実に向けて公共の利用に供する必要な道路についてはできるだけコストダウンを図った上で早期に建設、完成させること。第三に道路の保全、あるいは料金の収受などの管理業務について、効率性を追求し、高コスト体質からの脱却を図ると共にサービスの充実に向けて全力を尽くすことを目標に掲げており、日々業務を推進しています。

民間会社になって変わったと特に私を感じることは、いかにお客様に満足していただけるかを考えて事業展開していることです。例えば、ハイウェイコンビニやアミューズメントサービスを複合したSA・PAなどを展開しており、公団時代の単なる休憩施設からお客様満足施設への移行を目指していること。また、新規建設路線を早期に完成させることによる通行料金の割引は民営化による変化であると感じております。

まだまだお客様に満足されない部分があると思いますが、今後も安全、安心、便利を追求し、いかにお客様に満足されるかを考えて取り組んでいきます。

(土木・平成13年卒・同15年前期博士課程修了・西日本高速道路㈱)

## 応用物理学科

### 応用物理学科の近況

中山 弘



卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年は、世界的な、それも未曾有の金融危機に見舞われております。卒業生の皆様にとっても直接、間接の影響があるのではないのでしょうか。このような時こそ、起きている現象とそのメカニズムを

クールにとらえ、その対処を考える力が必要だと思います。常日頃、学生には、物理を勉強するのは、自然現象のみならず社会現象についても、それを法則的にとらえる知性を磨くためでもあると教育しています。このような時こそ、時代に流されない、クールな認識力と知性を兼ね備えた学生を育てる必要があると思われます。一方、楽しい話としては今年のノーベル物理学賞を本学の教授でもあった南部陽一郎先生が小林、益川両先生と共に、受賞されたということでしょう。南部先生はノーベル賞3回分の業績があるとのことですが、私共、物理とそれをベースとした応用物理に携わるものとして、学問の基礎をしっかりと研究することの大切さを痛感しました。

さて、学科の状況ですが、本年3月末に数理工学研究室の中村勝弘先生がご定年になり、同研究室の寺井章准教授が教授に昇任されました。中村先生のこれまでの多大なご功績に感謝する次第です。また、教育、研究面体制を充実するために宮口智成先生が4月に特任講師に採用され、10月には杉田歩講師が准教授に昇任されました。両先生とも数理工学研究室に所属し、応物の特徴の一つである理論的な教育と研究の

体制は整っています。恒例のソフトボール大会は、本年より、「中村勝弘杯」を中村先生から寄付していただき、先日、盛大に行われました。やはり応物は学生も先生も元気なところが「売り」ですね。

卒業生のみなさん。いよいよ来年度(平成21年度)より、新学科、電子・物理工学科(定員42人)がスタートします。電気工学科の電力、材料系の先生方と応物の教員とで新しい学科が発足することになります。物理のみならず、エレクトロニクス、エネルギーまで視野に入れて、腕と知性を磨き、開拓者精神に富んだ、学生を育てていきたいと思っております。卒業生の皆様にはこれまで以上のご支援とご指導をよろしくお願ひします。また、新学科になりましても皆様のご卒業になられた研究室は健在ですので、気軽に訪ねていただきたいと思っております。

文末ですが、卒業生の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。(工学研究科教授・応用物理学科主任教授)



## スポーツに関わりつづけて26年

植田 真司



みなさん、いかがお過ごしでしょうか。私は、「スポーツで人、企業、街を元気にしよう」と楽しい日々を過ごしております。在学中は、クラブ活動中心の時間を過ごしていましたが、幸運にもスポーツメーカーに就職し、ゴルフクラブの研究開発、その後、総合企画部等で新規事業の立上げ、マーケティング、ブランド戦略などの業務を経験し、2001年1月に独立しました。

現在、健康スポーツ分野を中心に、企業のコンサルティング、自治体の健康スポーツ関連産業振興の支援、モチベーション向上や創造力向上などの人材育成事業を行っています。

また、大阪国際大学、びわこ成蹊スポーツ大学では、非常勤講師としてスポーツ用具についての授業を行う一方、小中学校でもスポーツ選手に学ぶべきことなどをお話しています。

市立大学では、OCUSA（大阪市大学スポーツアソシエーション＝体育系OB会の結束・親睦と市大の発展・充実を目的に設立）のワーキンググループに所属し、大学と体育会系クラブの活性化を図る「高校生招待会（合同練習会）」などの活動をサポートしています。また、大阪市立大学文化交流センターが市民向けに開催している専門家講座（スポーツコース）の企画委員も行っております。

昨今、健康予防にスポーツが注目を浴びています。皆さんも自己管理をし、運動習慣を通して楽しい生活をお送りください。どこかで、お会いできる日を楽しみにしております。

（応物・昭和57年卒・㈱ニーズ創造研究所）

## 卒業11年目の近況

小島 磨



皆様、いかがお過ごしでしょうか。学部を卒業して早くも11年、修士を修了してから9年と、多くの年月が経過したことに、改めて驚きを感じております。私は、修士課程修了後、電機メーカーに就職し、開発に携わってまいりました。その後、02年から再び大学院博士課程に入

学し、05年に学位を頂くことができました。情報通信系の研究所に就職後、大学で助手（助教）として現在仕事に従事しています。現在の研究室では、学生の頃に学んだ知識を活用して、半導体の光物性、デバイスに関する研究を中心に活動しております。

職場の関係上、多くの学生に囲まれて毎日過ごしています。そこで気になっているのが、はつらつとした元気が溢れる学生が少なくなっていることです。不景気などの経済的な理由のために、アルバイト等で忙しいことに加えて、就職活動のことなどの将来への不安から気持ちが落ち着かず、心身とも疲れているのかもしれませんが、卒業後には元気を取り戻しているのか気にかけております。皆様の下に配属される新入社員はいかがでしょう。

さて、我々が卒業した応用物理学科が、平成21年度から、電子・物理工学科となるとのことで、愛着ある「応用物理」の名前が消えるのは、同窓生としましては、寂しい思いがいたします。新たな体制となりましても、これまで以上に活気溢れる学科となることを願っております。最後になりましたが、皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（応物・平成9年卒・同11年前期博士課程修了・神戸大学工学研究科助教）

## 情報工学科

### 情報工学科の近況

鳥生 隆



情報工学科の卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は今年度の主任を務めております鳥生隆と申すものです。恒例に従い学科の近況をご報告申し上げます。暗い話もありますが、ありのままをお知らせしようと思っております。

大阪市立大学は危機に直面しています。大阪市の財政難は深刻であり、本学も緊縮財政を余儀なくされています。特に問題なのは採用人事の凍結が何とも動かしがたく、新しい人材が入ってこないことです。伝統ある本学が本来の姿を失いつつあるのではないかと危惧されます。

情報工学科は14名の教員で構成されていましたが、現在12

名です。来年の3月に研究科長をされている濱裕光先生が定年でご退職されます。数年後にもう一人の教授の先生が定年を迎えます。その頃までは採用ができませんので残された10人で学科を運営しなければなりません。教育の質を維持強化するため、工学部では10学科を6学科に再編することとなりました。情報工学科と電気工学科の一部が合流して新しい情報工学科が来年の4月に発足します。

非常に厳しい状況の中でなんとか教育の質を向上させ、また、研究も推進していきます。先日、本学で教授を務められていた南部陽一郎先生がノーベル賞を受賞されるという嬉しいニュースが飛び込んできました。夢を追うことを忘れることなく、全員一丸となって前に進んでいこうと思います。経済情勢が厳しい中、苦しい状況はいずれも同じだと思えます。皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。

（工学研究科教授・情報工学科主任）

## 近況報告

### 藪 智文



2007年3月に情報工学科を卒業し、電子情報系専攻に進学して早、1年と半年が過ぎました。現在は修士課程2年として、日々研究に励んでおります。大学に入ってから5年と半年、月日の経つのはなんと早いことかと最近になって実感しているところです。

サークル活動に明け暮れた学部時代とは打って変わり、研究室に配属になってからは授業に研究にと忙しい毎日を送っております。今になって「あの頃もっと勉強しておけばよかった……」と思い返すことしきりです。今では専門的かつ高度な勉強ができる喜びを噛み締めつつ日々を送っております。

## バイオ工学科

### バイオ工学科の近況

#### 田辺 利住



政治、経済、社会どれをとっても問題山積みで息苦しくなるような時代ですが、生物応用化学科（現バイオ工学科）卒業生の皆様には、元気で御活躍のことと拝察致します。バイオ工学科の近況を簡単にお知らせします。本年3月、第15期生25名が卒業しました。4名が企業に

就職、20名が大学院に進学（他大学4名）、1名は来年度本学大学院に進学予定です。4月には28名の新入生を迎えました。教員では、笠井佐夫先生が本年3月で定年退職され、4月に本学科5期生の中西猛先生が特任講師として着任されました。昨年12月29日には、第2回学科同窓会（参加者96名、うち卒業生72名）が開催され、懐かしく楽しいひと時を過ごしました。同窓会は10期生有志の呼びかけで、先輩後輩が親密な繋がりを持てる機会としてH17年12月に第1回同窓会が開かれ、2年毎の開催予定です。教員一同同窓会が卒業生の呼びかけでスタート、継続していることを嬉しく思っています。今回は12期生が幹事を務めてくれました。ご苦勞様でした。これまで参加されていない卒業生の皆さんも是非次回には参加して旧交を暖めて下さい。



す。プレゼンテーションの準備やそのための情報収集、論文の執筆など苦勞も多いですが、これも将来の自分のため、今しかできぬ経験と思い日夜努力しております。

さて、他の同期生が皆就職を決める中、私は本学の後期博士課程に進学しようと思っています。先に社会へ羽ばたいていく学友達を見て、正直言って自分の中で焦りもありますが、より高度な知識を学び、専門的な分野で社会に貢献したいとの思いから進学を決意しました。現在の研究テーマとしては、次世代の携帯電話などの無線通信に関することを扱っています。やはり身近なものに関することですので大変興味深く、また結果が出たときには喜びもひとしおです。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

（情報・平成19年卒・前期博士課程2回生）

さて、工学部は来年H21年度に現在の10学科から6学科に再編します。バイオ工学科も応用化学科と合流し「化学バイオ工学科」になります。新学科では、化学と生命科学に渡る広い視野と、高い専門性を持った学生を育てたいと思っています。教員一同二つの学科の良い点を残しながら、新機軸を打ち出せるよう努力する所存です。

最後に、卒業生の皆様には、益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げますと共に、新学科になりましても暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（工学研究科教授・バイオ工学科主任教授）

## 近況報告

### 川津 猛



日差しもずいぶん和らぎ、心地よい風がなびく秋の土曜日の昼下がり、二日酔いの体に鞭をうち、いつものようにパソコンの画面に向かう。今年の春から市大で博士号の学位取得するため、論文作成に取り組んでいる。早く書かなければと思いつつも、あるフォトフォルダに目が留まってしまった。「生応化関連」。つかの間の気分転換と言いつつ手を伸ばす。

同期や研究室の仲間たちの笑顔。先生方との記念のツーショット。楽しかった記憶が鮮明に蘇る。イベントのたびに発揮する同期の見事なチームワークと団結力。卒論、修論、学会発表に向けた先生方からの厳しいプレゼン指導。苦しい時もあったが、どれも素晴らしい思い出ばかり。就職で埼玉に移り住んで早くも4年目、医薬品の探索研究に携わる中で様々な経験をしてきたが、それだけではない。研究テーマを進める上でチームワークを意識することの重要性、専門外の方々にも理解しやすくかつ正確に伝えるためのプレゼンの技術。当時の経験もまた輝きを放つ。そう感じながら、思い出

にふける。

いつの間にか日もずいぶん傾き、少し肌寒くなってきた。「論文用参考文献」。長崎先生からのメールで一気に現実に戻される。時計の針はすでに4時をさそうとしている。やべえ！ あわてて論文に取りかかる。

最後に、大阪市立大学の更なる発展と同窓会員ならびに関係者の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(生応化・平成15年卒、同17年前期博士課程修了、日産化学工業㈱)

## 「こんにちは」 from Thailand

### Jaruwan Maneesri



I graduated from Department of Applied Chemistry & bioengineering, Graduate school of Engineering 5 years ago.

Now I give lectures about Food Microbiology, Fermented Food Technology and Yeast Technology to graduates and undergraduates at Prince of Songkla

University (PSU) in Thailand, Department of Food Science and Nutrition, Faculty of Science and Technology. My research theme still remains to study about Microbiology, especially about Yeast.

I am proud of the knowledge and experiences that I obtained from Osaka City University (OCU), which is useful for work and life in Thailand. I am glad to have met everyone who was kind to me. I always appreciate and want to say “thank you very much” or “Arigatou gozaimasu” to my teachers and everybody at OCU. Japan is one of my motherland. It is a good memory. Japan is not far from Thailand. In the near future, I will come back.

(平成15年・化学生物系専攻後期博士課程修了・工学博士、Prince of Songkla University講師)



## 知的材料工学科

### 知的材料工学科の近況

#### 横川 善之



卒業生の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。平成18年4月に赴任し、入試委員、教務委員、内規委員などを担当し、今年、主任を仰せつかりました。よろしくお願い申し上げます。

近況についてご報告いたします。今年3月に第六期生21名が卒業し、4月には29名の新入生が入学しました。良好な就職状況を反映し7名が企業へ就職、その他は大学院へ進学しました。教員には変わりありません。

学科設立の頃と比べ必修科目数は多くなっていますが、カリキュラムの見直しや語学単位の互換制度（TOEICなどの成績により所定の単位を認める）の採用など、学生の自主性、積極性につながるよう努めています。今年は、本学科で初めて、飛び級制度により3回生終了で大学院へ進学する学生が現れそうです。また、他学科提供科目を履修する学生、語学留学する学生など、勉学に積極的な学生が見られます。研究に於いては、従来通りの世界的なレベルを維持しています。また、今年、材料機能工学研究室の橋本敏教授は仏国で、ビノグラドフ准教授は豪州で在外研究を行い、大学院ではインドAnna大学と協定を結ぶなど、国際的にも活発な学術活動を続けています。

一方、本学では大阪市の財政赤字の影響を受けた教員定員削減、新規採用凍結が行われ、結局、学科再編もやむを得なし、となりました。この夏のオープンキャンパスで、来年度

学生募集から、機械工学科と合同し、新機械工学科として生まれ変わることが発表されました。しかし、現在の4研究室は変わらず、「知的材料工学科」の優れた遺伝子を伝えていきます。枠組みは変わりますが、卒業生の皆様には今後とも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(工学研究科教授・知的材料工学科主任教授)

### 近況報告

#### 澤村 昌俊



平成20年3月に知的材料工学科を卒業し、機械物理系専攻前期博士課程に入学し、現在は材料知能工学研究室で日々研究や勉学に励んでおります。

昨年は、卒業研究に卒業論文と忙しく過ごしておりました。4回生の4月から8月までは、大学院の試験勉強に励んで

おりました。当初は「受かるものなのだろうか？」と思っていました。試験が8月の中旬にあり、試験を終えたときは背負っていた重みがなくなり、気分転換するために遊びまわりました(笑)。合格発表の日、ドキドキしながら番号を見たところ、自分の番号があったときはすごく安心しました。そしてそれからは研究に熱中し、週1回の打ち合わせ、実験、データ整理、考察といろいろ努力しました。10月の下旬には卒業研究の中間発表があり、それに向けてプレゼンテーションを試行錯誤しました。本番ではあがったり、十分に理解していなかった部分もあり、うまくはいえませんでした。次

の卒業研究の発表には頑張ろう、という新たな気持ちとともにスタートすることが出来ました。2月下旬に卒業論文の提出や卒業研究の発表がありました。先ほどの気持ちのおかげで難くこなすことが出来ました。

現在は違う研究テーマで研究を進め、また大学院の講義も

受けています。レポートや実験などが溜まっていると大変ですが、なんとか今を生きています(笑)。もうすぐで就職活動ですが、頑張って乗り越えていこうと思います。

(知材・平成20年卒・前期博士課程1回生)

## 環境都市工学科

### 環境都市工学科の近況

貫上 佳則



卒業生のみなさん、元気で活躍されていることと拝察いたします。

今年の春には23名の4回生が卒業し、このうち10名が進学し13名が社会に巣立っていきました。また、学生だけでなく、森先生と姥浦先生がそれぞれ京都大学と東北大学に栄転されました。学科と

しては貴重な人材を失うことになりましたが、両先生に代わって4月から環境都市計画分野に佐久間康富先生が、10月からは環境水域工学分野に遠藤徹先生が着任されました。特に遠藤先生は本学科1期生であり、9月に重松先生の指導の下で博士号を取得されました。佐久間先生、遠藤先生ともフレッシュな頭脳で本学科を盛り立ててもらえることと期待しています。



研究面では、嘉名先生が参画された「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」が文科省のG-COEに採択され、研究拠点作りに邁進されています。また、理系学部の横断的な連携組織として本学に発足した複合先端研究機構に、矢持先生をはじめ数名の本学科教員が参画し、理学部や生活科学部の先生方と環境改善・環境創生の研究を始められています。さらに、学科の複数の研究室で協働して応募した文科省の科学研究費が2件とも採択され、学科内の連携がより深



まっています。

加えて、本年は学科創設10年目を迎え、9月上旬に学内の高原記念館において学科同窓会総会を開催したところ、40名を超える卒業生と土井先生、小田先生、山田先生、西先生にご参加いただき、盛大に会を終えることができました。参加できなかった方も、次回は是非参加していただき、旧交を深めていただけたらと思います。最後になりますが、卒業生の皆様の活躍と発展を祈念しております。

(工学研究科教授・環境都市工学科主任教授)

### 近況報告

水谷 俊介



私は平成20年3月に環境都市工学科を卒業し、同年4月から京都市で社会人1年生として働いています。

私は現在、下水道に関わる仕事をしています。マンホールや下水管の新設や既設の物を改修する際の設計業務等をしています。現場調査から始まり、図面作成、積算、現場監督等の業務を日々、先輩方にお世話になりながらこなしております。パソコンの業務だけでなく現場での調査や仕事も多いですので、赤崎先生がおっしゃられていた「現場百遍」という言葉を懐かしく思いつつ、現場に訪れています。現場では、大学の講義とは異なり、聞き慣れない単語が数多く出てきます。最初は現場用語に戸惑う毎日でしたが、ようやく慣れてきました。自分が設計に関わった現場で問題となっていた場所が改善され、現場が完成した時に大変やりがいを感じます。

大学4回生でパソコンを用いた研究をしていましたので、その経験が現在の仕事に役立っています。昔は設計業務も手書きだったらしいのですが、今はパソコンでの業務となっています。手書きの設計は大学の時に大変苦労しましたので、パソコンでの業務に変わっていき助かりました。学生生活で学んだ事をそのまま仕事に活かせるわけではありませんが、土台となる事を学生の間に学ぶ事ができたと思います。

最後になりましたが、お世話になりました先生方、同じ環境都市工学科をご卒業された皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(環境都市・平成20年卒・京都市役所)

## ☆新6学科の名称・入学定員・教育研究分野

母校の工学部では、より広い専門的基礎科目を修得することにより、これからの学問・技術の広領域化に対応できる人材を育成するため、平成21年度の新入生から下記の新6学科に再編されることになりました。

ただし、当然のことながら、平成20年度以前の入学生までは、現学科名通りの卒業となります。

なお、入学定員の総数は従来同様280名で変わりません。

新6学科の名称	入学定員	教育・研究分野
機械工学科	56名	熱工学・流体工学・機械力学・生産加工工学・動力システム工学・材料数理工学・材料機能工学・材料物性工学
電子・物理工学科	42名	電磁気学・材料計測工学・波動物理学・物性制御工学・光物性工学・応用分光計測学・数理工学
情報工学科	42名	電子回路学・光電子工学・電子デバイス工学・情報ネットワーク工学・情報システム工学・情報処理工学・知識情報処理工学・通信システム工学
化学バイオ工学科	56名	無機工業化学・有機工業化学・高分子化学・工業物理化学・材料化学・生物分子工学・生物化学工学・生体機能工学・生体材料工学・細胞工学
建築学科	34名	建築防災・建築構造学・建築構法及び材料・建築環境工学・建築デザイン・建築設備・建築環境・コミュニティデザイン・空間図形科学
都市学科	50名	環境都市計画・都市基盤計画・地域環境計画・環境水域工学・構造学・都市リサイクル工学・応用構造工学・地盤工学・建設材料及び河海工学

## ☆取得可能な各種免許・資格

学科	免許・資格 <sup>*1</sup>
各学科共通	高等学校教諭1種免許状〈工業〉 <sup>*2</sup> 、安全管理者〈就任〉(所定の実務経験3年以上)
機械工学科 知的材料工学科	機械工学科 特級ボイラー技師〈受験資格〉(ボイラーに関する科目を修得し、卒業後、所定の厚生労働省のカリキュラムに基づいた実地修習を2年以上(特級)、1年以上(1級)、3月以上(2級)経た者)
応用化学科 バイオ工学科	化学バイオ工学科 甲種危険物取扱者〈受験資格〉(化学に関する科目を15単位以上修得した者)
建築学科 都市基盤工学科 環境都市工学科	建築学科 測量士(測量に関する科目を修得し、卒業後所定の実務経験1年以上で資格取得) 測量士補(測量に関する科目を修得し、卒業後願出により資格取得) 1級建築士〈受験資格〉(所定の科目を修得し卒業後、所定の実務経験2年以上)* 2級建築士〈受験資格〉(所定の科目を修得し卒業後)* *新学科として申請予定
建築学科 都市基盤工学科 環境都市工学科	都市学科 測量士(測量に関する科目を修得し、卒業後所定の実務経験1年以上で資格取得) 測量士補(測量に関する科目を修得し、卒業後願出により資格取得) 1級土木施工管理技師〈受験資格〉(卒業後、所定の実務経験3年以上)* 2級土木施工管理技師〈受験資格〉(卒業後、所定の実務経験1年以上)* 1級建築士・2級建築士〈受験資格〉* *新学科として申請予定

学科欄□内は、2009年4月再編予定学科

\*1「受験資格、就任」については、卒業後、それぞれ所定の実務経験が必要です。

\*2 電子・物理工学科、化学バイオ工学科、都市学科については申請中です。

## ☆平成19年度(20年3月)工学部卒業生の主な就職先

【公務員】	大阪府庁・京都市役所・和歌山市役所・堺市役所・斑鳩町役場
【独法】	科学技術振興機構
【企業】	NECシステムテクノロジー(株)・カワサキプラントシステムズ(株)・シャープ(株)・トヨタ自動車(株)・ヤマハ発動機(株)・京セラ(株)・(株)大林組・近畿日本鉄道(株)・スズキ(株)・松下電工(株)・(株)ディスコ・(株)NTTファシリティーズ・サンヨー電機(株)・住友金属工業(株)・三菱電機(株)・大成建設(株)・(株)日本システムデベロップメント 他

## ☆平成19年度(20年3月)大学院修了生の主な就職先

【公務員】	国土交通省・特許庁・大阪府庁・堺市役所
【企業】	NTTコミュニケーションズ(株)・キャノン(株)・住友電気工業(株)・ダイハツ工業(株)・(株)東芝・松下電器産業(株)・(株)NTTドコモ・(株)村田製作所・シャープ(株)・積水化学工業(株)・三菱電機(株)・帝人(株)・富士通テン(株)・オムロン(株)・(株)デンソー 他



## 《 叙 勲 》

三輪 雅久 先生

本学名誉教授・元建築学科教授

平成20年度春の叙勲で、本学工学部都市計画研究室での長年に亘る教育・研究が認められ「瑞宝中級賞」を受賞。

主要履歴：昭和25年 東京大学第2工学部建築学科卒業

- ♪ 40年 大阪市立大学教授
- ♪ 52年 大阪市立大学工学部長
- 平成2年 大阪市立大学定年退職

## 《 受 賞 》

坂根 正弘 氏

(株)小松製作所 代表取締役会長

産業界での品質管理の発展への貢献が認められ、(財)日本科学技術連盟の平成20年度「Deming賞」を受賞。

主要履歴：昭和38年 大阪市立大学工学部機械工学科卒業

- 平成1年 (株)小松製作所取締役
- ♪ 9年 (株)小松製作所専務取締役
- ♪ 11年 (株)小松製作所代表取締役副社長
- ♪ 13年 (株)小松製作所代表取締役社長
- ♪ 18年 (株)小松製作所代表取締役会長

## [ お 願 い ]

恩師や同窓生の「叙勲・受賞」は、会報に掲載して会員各位にお知らせしますので、情報入手され次第、当会の事務局へご連絡願います。

## ＜学友会の大学支援にご参加を＞

大阪市立大学学友会は、同窓生による大学支援組織として平成17年に新設されて4年目ですが、同窓生会員は漸く1,600余名になったところです。

独立法人化により、主要な国立大学でも同窓生による大学支援組織の創設や基金設立の募金を進めており、本学同窓生各位にも学友会の大学支援活動にご参加願うことが不可欠です。

当会の皆様にも、学友会による母校のユニークな教育・研究の支援に是非ご参加下さるようお願いいたします。

なお、ご入会は、学友会事務局（06-6605-3420）か、当会事務局（06-6607-8373）にお電話下さい。

また、学友会の詳細な情報は、学友会のホームページ（<http://www.osaka-cu.com/>）をご参照下さい。

## ※工学部同窓会創立50周年※

当工学部同窓会は、1960年（昭和35年）11月3日に創立され、約950名の正会員を持つ同窓会として活動を開始しました。

本年（平成20年）の正会員は、12,500余名（逝去・不明を含む）までになっており、2010年（平成22年）の創立50周年の正会員は、13,000余名に達する予定です。

理事会では、「工学部同窓会創立50周年」の記念行事や節目の年での「活動内容の活性化に向けた見直し」などが検討されようとしています。

## —「平成20年の集い」から—

20年2月16日(土)に第7回キャンパス交流会として催された集いの、懇親会にご出席下さった方々の写真です。



山下・濱両先生と電気卒業生有志



森島先生と機械卒業生有志



土木・応物卒業生有志

事務局年報 (2007・12～2008・11)

2007年(平成19年)

12月 : 会報第23号の発送完了・事務局直接配布開始(5日)。

2008年(平成20年)

1月 : 第19回評議員会開催通知を発送(16日)。新保・志野両監事の会計監査(21日)。第18期第5回理事会にて第19回評議員会の議案を検討・決定(29日)。

2月 : 母校の学術情報総合センター文化交流室にて開催の第19回評議員会で「第18期1年目(2007年度)の経過と収支決算報告、第18期2年目(2008年度)の新理事会役員・事業計画・予算」を承認。その後の第7回キャンパス交流会では、竹中富士重工顧問と橋讀賣テレビ放送部長の講演を拝聴した後、高原記念館の学友ホールで懇親会を催し、約90名の同窓が絆を深め合った(16日)。

3月 : 平成20年度新入生への当会会則・案内・会報及び学友会入会要請書の配布を学務係に依頼(3日)。卒業・修了生宛送別文書と会費納入要請書の配布を各学科理事に依頼。工学部大講義室における「工学部・工学研究科送別式(学部卒業:258名、前博修了:168名、後博修了:13名)」に田守会長、山田副会長及び理事有志が出席(24日)。

4月 : 新入生への学友会入会受付支援(2日)。第18期第6回理事会で、本年度の活動計画の具体化を検討(3日)。2008年度入学式が大阪府立中央体育館にて行われる(4日)。市大広報「CITY X UNIVERSITY」第2号を学外の理事・評議員及び大学院生評議員に配布(18日)。2008年第1回財務委員会で特別基金の運用を検討(21日)。

5月 : 第117回市大ボート祭に協賛アドバルーンを掲揚(24・25日)。2008年第2回財務委員会で特別基金の運用及び後期博士課程修学奨励金を検討(26日)。

6月 : 市大同窓会連絡会第1回運営委員会で本年度同窓会費の配分案を検討(18日)。第18期第7回理事会で本年度事業計画の具体化を検討(24日)。

8月 : 市大同窓会連絡会の平成20年度役員会(田守会長、宮本・杉本・山田3副会長参加)開催(5日)。工学部学術情報交流センターの夏季休館(11～15日)。

9月 : 第1回広報委員会で会報第24号の発行計画を検討(4日)。後博進学者修学奨励金を1名が申請(5日)。後博進学者修学奨励書の書類審査で1名の採択を決定(10日)。2008年第3回財務委員会で特別基金運用案の具体化を検討(16日)。平成20年度修学奨励金(2回生2名・1回生1名)を支給(24日)。当期第8回理事会では第7回ホームカミングデーでの工学部関係行事として「電気工学科の集いの支援」を決定、財務・広報両委員会の報告・提案を了承、第20回評議員会後の「工学部同窓会の集い」の会場・日程・講演者等を検討(29日)。

10月 : 市大広報「CITY X UNIVERSITY」第3号、及び第7回ホームカミングデー案内状(近畿2府4県在住評議員・評議員欠員クラスの大阪市内又は府下在住有志へ)を発送(17日)。会長・名誉会長・定年恩師・学科主任・卒業生に会報第24号原稿の依頼状を発送(6日)。同窓会活性化に関する有志懇談会を開催(20日)。

11月 : 第7回ホームカミングデーでの人工オーロラ見学会・電気工学科の集いに約60名が参加(3日)。会報24号の初稿を開始(14日)。同窓会活性化に関する第2回有志懇談会を開催(17日)。市大愛知支部同窓会の総会に田守会長が出席(19日)。

(1)第18期第1年度(2007年1月～12月)収支決算報告

(イ)経常費収支決算表(円)

収 入		支 出	
終身会費	5,466,000	会議費	211,271
預金利息	6,911	行事費	103,630
雑収入	22,000	会報	1,445,375
前期繰越	8,589,457	会員名簿	178,500
		協賛費	383,461
		渉外費	16,651
		通信費	78,805
		事務局費	2,508,048
		備品費	38,220
		次期繰越	9,120,407
合 計	14,084,368	合 計	14,084,368

(ロ)借貸対照表(2007年12月末、円)

借 方		貸 方	
振替口座	865,784	累計剰余金	8,589,457
普通預金	7,579,059	当年剰余金	530,950
定期預金	54,849,044	特別基金	54,173,480
合 計	63,293,887	合 計	63,293,887

(2)第18期第2年度(2008年度1月～12月)理事会役員

会 長: 田守芳勝(物38)  
 副会長: 宮本万功(機43)、山田文一郎(化40)、杉本豊三(電44)  
 理 事: 副松 晃(機26)、下田隆二(機29)、人見宗男(機31)  
 南斎征夫(機39)、東 恒雄(機41)、笠上文男(機50)  
 栗政幸一(電31)、建部 渉(電35)、行藤三男(電36)  
 南 敏行(電45)、串坂 徹(電55)、村治雅文(電62)  
 近藤紘一(化37)、三刀基郷(化39)、五百井正樹(化40)  
 橋本泰郎(化40)、三浦洋三(化42)、大嶋 寛(化49)  
 小河一真佐(建26)、都築 周(建29)、溝神宏至朗(建36)  
 貴志義昭(建41)、坂 壽二(建42)、赤崎弘平(建45)  
 谷口徹郎(建59)、井上 保(土26)、園田恵一郎(土36)  
 伊藤和雄(土38)、湊勝比古(土41)、日野泰雄(土50)  
 大島昭彦(土55)、川上一夫(物35)、島谷宏文(物38)  
 増岡俊夫(物38)、和倉慎治(物45)、宇佐美照夫(物46)  
 監 事: 新保市弘(電35)、志野太一(物40)

(3)第18期第2年度(2008年1月～12月)事業計画

- ①会報第24号の12月上旬発行・配布。
- ②工学部・全市大行事及び事業への協力。
- ③会員相互の親睦交流の促進。
- ④特別基金の運用と有効活用。

(4)第18期第2年度経常費予算(円)

収 入		支 出	
終身会費	5,465,000	会議費	200,000
預金利息	7,000	行事費	200,000
雑収入	4,000	会報	1,450,000
前期繰越	9,120,407	会員名簿	200,000
		協賛費	400,000
		渉外費	30,000
		通信費	80,000
		事務局費	3,000,000
		備品費	250,000
		次期繰越	8,780,407
合 計	14,596,407	合 計	14,596,407

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2008.10.1現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	都市基盤工学科	応用物理学科
西村 伸也 2664	南 繁行 2760	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	大内 一 2173	中山 正昭 2739
伊奥田浩志 2963	武智 誠次 2677	有吉 欽吾 2791	谷口 徹郎 2707	角掛 久雄 2723	金 大貴 3087
加藤 健司 2665	會田 田人 2678	藪内 直明 2791	木内 龍彦 2706	北田 俊行 2734	中山 弘 3088
脇本 辰郎 2965	高橋 秀也 2679	畠中 康夫 2979	谷口与史也 2709	山口 隆司 2765	福田 常男 2738
川合 忠雄 2667	草開 稔 2681	南 達哉 2980	吉中 進 2708	松村 政秀 2735	細田 誠 2742
藤田 勝久 2666	田中 健司 2975	圓藤紀代司 2697	梅宮 典子 2710	東田 淳 2725	菜嶋 茂喜 3089
佐藤 嘉洋 2670	向井 孝彰 2792	辻 孝一 3080	大倉 良司 2711	大島 昭彦 2996	熊谷 寛 2879
川上 洋司 2668	宮崎 大介 2877	米谷 紀嗣 2984	横山 俊祐 2199	日野 泰雄 2730	小林 中 3030
脇坂 知行 2671	辻本 浩章 2685	松本 章一 2981	藤本 益美 2989	内田 敬 3099	寺井 章 2748
瀧山 武 2672	村治 雅文 2976	小島 誠也 2797	徳尾野 徹 2713	吉田 長裕 2731	杉田 歩 2904
高田 洋吾 2970		佐藤絵理子 2982	宮本 佳明 2176	角野 昇八 3078	宮口 智成 2768
				鬼頭 宏明 3050	
情報工学科	バイオ工学科	知的材料工学科	環境都市工学科	共通	事務室等
濱 裕光 2772	井上 英夫 2782	澤田 吉裕 2660	赤崎 弘平 2717	(応用数学)	教務担当 2653
柳原 圭雄 2773	北村 昌也 3091	逢坂 勝彦 2962	嘉名 光市 2715	多羅間茂雄 2669	庶務担当 2651
鳥生 隆 2684	中西 猛 2783	高坂 達郎 2182	佐久間康富 2716	鈴木 広隆 2712	学情サプセンター 2657
平井 誠 2683	大嶋 寛 2700	元木 信弥 2661	中尾 正喜 2993	(機械工作室)	
中島 重義 3096	五十嵐幸一 2699	山崎 友裕 2181	西岡 真稔 2718	吉岡 真弥 2967	
辰巳 昭治 2688	長崎 健 2696	大島 信生 2961	鍋島美奈子 2719		
上野 敦志 3081	東 秀紀 2168	橋本 敏 2673	矢持 進 2175		
岡 育生 2779	田辺 利住 3094	A.ビングラドフ 3049	重松 孝昌 2732		
阿多 信吾 2191	立花 亮 2702	兼子 佳久 2179	速藤 徹 2733		
原 晋介 2795	東 雅之 3092	横川 善之 2743	貫上 佳則 2728		
杉山 久佳 2796	立花 太郎 2167	中村 篤智 2741	水谷 聡 2727		
辻岡 哲夫 2192		岸田 逸平 2194			

## 第20回評議員会のお知らせ

前略 評議員各位には当会のために、色々のご協力頂き誠に有り難うございます。

さて、第20回評議員会(平成21年評議員会)を、下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い致します。

記

日時：2009年(平成21年)2月20日(金)  
午後5時30分～6時20分

会場：大阪弥生館 2階 (裏表紙地図参照)

なお、ご欠席の場合の委任状(後日郵送)は、2009年2月13日(金)までに必ずご返送下さい。

## 編集後記

猛暑に茹だり北京オリンピックを楽しんだのも束の間、アメリカ発の金融危機という荒波にもまれることとなっています。将来の予見はできませんが、少しでも早く脱したいものです。

公立学校法人 大阪市立大学が発足し満2年半が過ぎましたが、よく整備されたキャンパスはいつ訪れても心和むものです。一方で、工学部は2009年4月から現在の10学科が6学科に再編されます。教育・研究分野の変化に対応し新しい学科名となる場合もありますが、伝統が受け継がれ工学部の発展につながることを願われます。

本誌については、会員数の増加もあり広い年齢層の会員さらには準会員も意識した編集とすべく知恵を絞っており、母校や会員の動向をお伝えするよりよい会誌となることを目指しています。なお、本号表紙にはこれまでとは趣を変え加藤錠治氏(元生物応用化学科教授)創作の仏像(写真)を使わせて頂きました。今後も、絵画ばかりでなく表紙に相応しい題材の採用を考えています。また、裏表紙には来春2月の「工学部同窓会の集い」のご案内を掲載しています。これまでご参加の方も初めての方も是非ご参集下さい。

よいお年をお迎え下さい。(山田文一郎)

## 編集委員

○山田文一郎(応化：昭和40年卒) 南斎 征夫(機械：昭和39年卒)  
大嶋 寛(応化：昭和49年卒) 村治 雅文(電気：昭和62年卒)  
谷口 徹郎(建築：昭和59年卒) 大島 昭彦(土木：昭和55年卒)  
人見 宗男(機械：昭和31年卒) (○印：委員長)

# 工学部同窓会の集い 同窓懇親パーティー2009

来春の“工学部同窓会の集い”を下記の通り開催致します。

当日は、橋本安弘氏（朝日放送常勤顧問・昭和43年電気卒）に、

## 『蘇る水都・大阪—中ノ島界限再生への挑戦—』

と題するお話をして頂きます。

また、ご定年恩師や濱裕光工学研究科長兼工学部長にもご出席いただく予定です。同期生や職場の同窓生等をお誘い合わせの上、ご参加下さるようお待ちしております。特に、ミニ・クラス会やミニ職域会としてのご参加は大歓迎です。

### 記

★日 時：2009年2月20日（金曜日）、午後6時30分～午後8時30分

★会 場：大阪弥生会館  
大阪市北区芝田町2丁目4-53  
(TEL:06-6373-1841)

★会 費：6,000円（当日受付）

【参加申込】 1) 連絡事項：①氏名、②学科（専攻）名、  
③卒業（修了）年、④ご住所

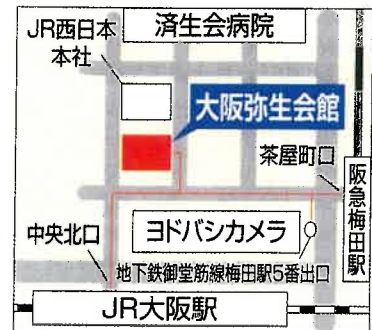
2) 連絡期日：2009年2月13日（金）

【連絡先】：大阪市立大学工学部同窓会事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

FAX:06-6605-2769

メールアドレス：dousoukai@office.eng.osaka-cu.ac.jp



〔秋の時計台とその前庭〕



〔時計台前から工学部棟への秋の眺望〕